

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 広田 照幸

研究課題		戦後日本における教育改革イデオロギーの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	戦後日本におけるさまざまな時期の教育改革を嚮導したイデオロギーを、社会学的な観点から考察する。具体的には、①「教育と政治」が主題となった1940年代後半～1960年代初頭、②「教育と経済」が主題となった1960年代～70年代、③新自由主義的な改革ビジョンが登場してきた1980年代、④政治構造の変化と経済構造の変化が同時並行で急速に進み、教育改革につながっていった1990年代～現在、の4つの時期に関して、政策決定に関与(ないし抵抗)したアクターの違いに注目しながら、そのイデオロギーの対立構図を整理していく。以上の主題の中で特に今年度力点を入れて検討するのは、1950年代初頭の時期の政治と教育の関係である。
	研究の 結果	<p>本年度に深掘りした1950年代初頭の時期の政治と教育の関係の問題は、思想史・労働運動史と教育史の接点に注目しつつ、幅広く文献を渉猟して検討を進めていったが、まだ研究成果をまとめるには至っていない。とはいえ、1940年代末の労働運動における民同左派の流れが、1950年代の日本教職員組合の運動にどうつながっていったのか、特に社会党・共産党との距離関係についての概略は整理するところまでできた。</p> <p>また、他の時期についても、文書資料の収集・整理のほか、聞き取り調査などをおこなったが、それによって、1970-80年代の教育運動の転調や、運動としての行き詰まりの要因について、ある程度整理ができた。</p> <p>これらの作業をふまえながら、一つには、戦後日本における教育の歴史社会学的研究がどういう現実的な社会的課題を抱えて展開したのかについて見通しを立てることができた。また、「道徳の時間」の特設と「道徳の教科化」との関係や、戦後史の中の政治的対立の変容という文脈で整理することができた。</p>
	研究の 考察・ 反省	戦後改革期と高度成長期のはざままで等閑視されてきた1950年代の教育改革論やその背景にあった運動論的文脈を掘り下げることで、従来の戦後教育史に欠けているポイントを明確にできそうな段階まで来ているが、まだ実証的な検討が不十分な状況にとどまっているため、史料の網羅的な検討を含めたさらなる研究が必要である。同時に、臨時教育審議会が発足し、現代的な意味での教育改革が本格的に始まる1980-90年代の時期の出来事の位置づけを明確にしていくためには、「政治から経済へ」という1960年前後の転調の意味や構造を検討していく必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>[研究発表] 「戦後日本社会の変化と教育の歴史社会学の展開」(「二战后日本社会的变化与教育的历史社会学发展」) 於南京大学社会学院、2018年10月22日。 「多元化した社会における道徳教育に必要なこと」九州教育学会第70回大会総合部会『「特別の教科 道徳」という不安/希望——「考え、議論する道徳」の行方——』 於南九州大学(都城)、2018年11月17日。</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>[研究成果物] 「多元化した社会における道徳教育に必要なこと」『九州教育学会研究紀要』第46巻、2019年3月刊行予定。</p>	